

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170700175
法人名	医療法人 天心堂 志田病院
事業所名	グループホーム さくら荘
訪問調査日	平成 19 年 10 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 27 日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170700175		
法人名	医療法人 天心堂 志田病院		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	佐賀県鹿島市大字中村2191番地2 (電話) 0954-63-1550		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年10月10日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15 人	常勤 9 人 非常勤 6 人 常勤換算	15	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 円 昼食 円 夕食 円 おやつ 円 または1日当たり 1000円		

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 天心堂 志田病院 寺尾歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

さくら荘は、代々受け継がれている歴史のある商店が並ぶ街の中にある。入居者は、地域で、その人らしく過ごせるように各行事への参加、ボランティアとしてゴミ拾い、公民館の花植えや水やり、商店街へのへ買物や食事と外出の機会も多い。さくら荘の行事には、地域の方々や家族にチラシや招待状を配り参加を呼びかけている。防災訓練時には、地域の方々の協力を得て行っている。この様に商店街の方々と気軽に挨拶や会話ができるなじみの関係を築いている。その中で入居者と職員は、お互いに支えあい、教えあい、学びあい、穏やかな日々を過ごしている。運営者は、職員研修にも積極的で、内外の研修参加や研究発表と職員教育に取り組み、サービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で課題となった緊急時対応について、勉強会を開き改善に取り組んでいる。最近では人工呼吸法、AEDの使い方を学習している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員の意見を聴き、全員で取り組みサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、会議を開催している。入居者の日常生活をスライドで紹介したり、評価への取り組み状況等を報告し、出席者から意見を聞き話し合い、地域との関係づくりやサービスの向上に活かしている。今年は、特に推進委員である区長、商店街の方に意見をきき「地域とのふれ合う憩いの場の提供」と題して研究に取り組み、その結果地域との関わりが増えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時における家族との話し合いや、玄関に設置された意見箱、年2回の「ご家族様・満足度調査」のアンケートを実施することで、意見、不満、苦情を表せる機会を設けている。内容や対応は、玄関の掲示板に掲示し、ケアサービスに活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は地域密着型サービスの役割を理解し、地域連携年間計画を立て地域の行事に参加したり、ボランティア活動をし、地元住民との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を目指したホーム独自の理念として、『利用者様とのふれあいを大切に、生きる喜びを共有し、常に笑顔で、安らぎのある生活が送れるよう支援します』をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼後に運営理念の唱和を行い理念の共有につとめている。日々のサービスの提供場面において理念が反映されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、地域密着型サービスの役割を理解し、地域連携年間計画をたて、地域の水路清掃、ゴミ拾い、公民館の花植えと水やり、保育園や小学校行事、老人会等に参加し地域住民との交流に努めている。又、「地域とふれ合う憩いの場の提供」のテーマで研究に取り組み、その結果、近所の方々の来荘もあり、地域とのふれあいも増えてきている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員の意見を聴き全員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。前回の外部評価で課題となった緊急時の対応について、勉強会を開き改善に取り組んでいる。最近では、AEDの使い方、人工呼吸法等を学習している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。推進委員として区長、近所の商店街の方々も参加されている。入居者の日常生活をスライドで紹介したり、評価への取り組み状況等を報告し、出席者から意見を聞き話し合い、地域との関係づくりやサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターに、入居者や家族の支援について相談をしたり、助言をもらってサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭管理を報告している。健康状態が少しでも変化した場合は、その都度家族に電話で伝えている。ホーム便りも年に4回発行し、入居者の日々の様子を紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置された意見箱と、年2回の「ご家族様満足度調査」と題したアンケートを実施することで、意見、不満、苦情を表せる機会を設けている。その内容及び対応は、玄関の掲示板に貼り、ケアサービスに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係を重視し異動は最小限にしているが、変わる場合は、入居者や家族の面会時に自己紹介し、管理者や他の職員がフォローしダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて計画が立てられ、研修をうける機会を確保している。パートの職員にも研修への参加機会がある。法人内外の研修内容は、翌日の申し送り時に報告され、全職員が情報を共有することができる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、開催される地域ケアネットワーク・院内研究発表会への同業者の参画等の活動を通じて、地域の同業者と交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学により、職員や他の入居者とのふれ合う機会があり、さくら荘の雰囲気を掴んでもらい、納得してサービスを利用されるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、人生の先輩であるという考えを共有しており、食事の準備、家庭菜園、漬物作り、手芸等積極的に教えてもらう場面作りをしている。1日の生活の流れの中で、職員、入居者から、お互いに“ありがとう”という感謝の言葉が出ており和やかな生活ぶりである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めケアプランに反映している。特に職員と入居者が1対1となる入浴介助時に希望や意向がしやすい。困難な場合は、家族や親戚等から情報を得て思いを反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人や家族に思いや意見を聞き、職員、医師、必要に応じて理学療法士、作業療法士、言語療法士、と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、定期的に見直しをしているが、入居者の状態の変化時や入退院後は、見直し期間前に現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎、地域の図書館やサークル活動への付き添い、買い物や外食等その時々要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人及び家族の希望を聞き、納得が得られたかかりつけ医に受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人や家族の意向をきいている。重度化した場合や終末期になると隣接の病院に入院されている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には、プライバシーの確保の研修を徹底して実施されており、入居者への言葉かけや対応には、家族のぬくもりが感じられる。ホーム便りの中の写真や記事へのプライバシー確保には、家族の了解を必ず得るようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者、職員は、入居者に“今日はどうのように過ごしたか”聞いてから支援をしている。地域の行事への参加も、入居者の方が解るように大きな案内板を作り、一人ひとりに見せて出欠を聞き希望に添うように支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、後片付け等入居者が出来ることは、職員の見守りのもとに支援をしている。食事も、職員と入居者が一緒に、微笑み楽しみながら食べている。入居者の食べこぼしにも、職員のさりげない介護がみられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴ができるようになっている。週に2～3回の夜間入浴を含む毎日の入浴回数や時間はまちまちであるが、一人ひとりの希望に合わせて支援をしている。入浴を拒む入居者には、声かけを工夫したり、入居者の好みの職員で支援をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、手芸、園芸等一人ひとりの力量を活かした支援をしている。手芸が好きな人には、1日3回の針のチェックのもとに、自由に作品づくりを楽しんでもらっている。完成品は、来所してくださった方々にプレゼントされている。又、地域のちぎり絵サークルにも、2名の入居者が参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により、図書館や近所の店まで買物に行ったり、時にはケーキ屋でティータイムをしたり、ラーメン屋に食べに行くこともある。一人ひとりのその日の希望にそって、外出支援をおこなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵をかけることなく自由に出入りができる。職員は、入居者の状況の把握と玄関のドアに取り付けられた心地よい音色の鈴により、入居者の出入りを察知している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々の参加を得、年2回・防災訓練を行っている。地域の人々は入居者と顔なじみの関係が出来ており、訓練には進んで参加してもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事摂取量は、記録に残し確認している。栄養バランスは、隣接の病院の管理栄養士により把握されている。水分摂取の目安として、食事以外に1日に1.2リットル位を目指している。自由に飲めるお茶の準備もあり、ペットボトルにお茶を入れ、いつでも飲めるように持ち歩いている入居者もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は、やわらかい採光で明るく、耳ざわりな騒音もない。居間には、テーブル、ソファ、畳の間があり、そこからは、花壇、家庭菜園が一望でき季節感を味わうことができる。その中で、入居者同士、入居者と職員が和気あいあいと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具やテレビ、仏壇、冷蔵庫、写真、手芸作品等が置かれ、入居者一人ひとりの個性が見られ居心地よく過ごされる工夫がなされている。仏壇に、毎朝ご飯と水をお供えし、お参りされている入居者もおられる。		